

## ●新生児仮死

新生児仮死は、うまれたときに、泣かなかったり、心臓がうまくうごかなかったりすることによって、赤ちゃんが苦しい状態になっていることをいいます。アプガースコアという指標で、その重症度を判断することもあります。新生児仮死のときは、呼吸や循環の障害のため、血液や酸素がうまく体中を回らないため、脳、腎臓、肝臓、腸など、いろいろな臓器がダメージを受けるため、多臓器不全という状態になることもあります。

症状は、多呼吸や低酸素などの呼吸症状、低血圧や尿がでないなどの循環症状、けいれんや脳浮腫などの神経症状、などがあります。治療は、低体温療法（脳低温療法）がもっとも効果があり、基準を満たした新生児仮死の赤ちゃんに対して、世界中でおこなわれています。当院でも、年間10例以上の赤ちゃんに低体温療法をおこなっています。その他に、人工呼吸器や昇圧剤、抗けいれん剤などの治療が併用されています。

ほとんどの臓器は通常の状態に戻りますが、稀に戻らなかった場合は、後遺症として残ります。とくに、低酸素性虚血性脳症は、重い後遺症を残すため、早期からのリハビリや抗けいれん剤などの治療が必要です。